

平成28年度第3回市民活動団体支援制度審査会

開催日時 平成28年7月26日（火） 午前10時00分から

開催場所 生駒市コミュニティセンター 401号室

出席者

（委員）中川委員、北浦委員、宮西委員、谷野委員、森委員、平井委員

（事務局）金子市民活動推進課課長補佐、西野市民活動推進センター所長、西田市民活動推進センター係員

案件1. マイサポいこまの届出状況について

【事務局】 7月1日から平成28年度のマイサポいこまの届出が始まっております。現在の状況ですけれども、昨日時点で2,402人の届出がございまして、そのうち無効届出が48枚でした。人口の9万9,423人ですので、現在の届出率は、2.41%となっております。今年度は1人当たりの支援金が826円と、前年度から3円高くなったという形です。現段階で支援金の希望額を達成した団体が、7団体あります。全部で25団体ですので、もう少し頑張っていたきたいと思われども、私どもも頑張っております。今現在、私たち職員は出前受付といいまして、大きな市内でのイベントに参加して声をかけております。その時点でご希望があれば、届出を受け付けています。出前受付については、今年度は10回予定しています。届出の状況は、以上とさせていただきます。

案件2. マイサポいこま博覧会の報告

【事務局】 次に、マイサポいこま博覧会について報告します。こちらは、7月2日に開催いたしました。審査員の皆様にも、事前に通知を出させていただきましたが、7月2日の午前10時から午後3時まで、生駒駅前のベルテラスで行いました。内容は、マイサポ団体のブース展示やステージでの発表、体験コーナーやスタンプラリーなどをいたしま

した。スタンプラリーは花のまちづくりセンターふろーらむから花をいただきまして、花苗のプレゼントをいたしました。そのときの様子を1分間のPR動画にまとめましたのでご覧ください。

(ビデオ上映)

【事務局】 短いですがPR動画を作成しまして、生駒駅前の生駒情報ステーションで放映させていただきました。また、ららポートでも放送しPRに努めております。以上で報告を終わらせていただきます。

案件3. マイサポいこま制度改正について検討

マイサポいこま制度5年を振り返って よりよい制度にするために

【事務局】 次に、マイサポいこま制度改正についての検討ということで、お手元の「マイサポいこま制度5年を振り返って」に沿って説明いたしたいと思います。その後、事務局から現状と課題とプランを説明させてもらった後、ご審議に入っていただけたらと思います。

まず、マイサポいこまの現状と課題についてですが、現在のマイサポいこま制度のPRについて説明いたします。定例の広報活動についてということで、例年行っている分です。マイサポいこまの紹介冊子ですが、こちらに関しまして各家庭に全戸配布、4万9,000部刷ってお渡ししております。また市内公共施設やマイサポ団体に配布を依頼しました。このほか、2,000枚チラシを作成しまして、これは冊子とは別にA4サイズのものを作り、施設等で配布しております。また、先ほど申し上げました、大型イベントなどに出前受付に行きますが、その際の説明資料としても使用しております。

マイサポいこまのポスターは、500枚刷りまして、市内の公共施設や自治会集会所と駅にも掲示をお願いしています。

また、全マイサポ登録団体のプレゼンテーションを録画、編集したものを、ユーチューブで配信し、市の公式ホームページからもご覧いただくことができます。

平成27年度には、シンポジウムを開催いたしました。今年はマイサポ博覧会に変更いたしましたので、シンポジウムは昨年だけのイベントとなります。

平成28年度新規PR活動について、例年行っております事業に加えて、今年の新しい事業でございます。先ほど申し上げました、マイサポいこま博覧会、7月2日ベルステー

ジにて行いました。また、さきほど見ていただきましたマイサポいこまPRビデオを作成いたしました。紹介冊子ですけれども、従来の紹介冊子は、文字ばかりでしたが、このように絵とイラスト、写真を多用いたしまして、見やすいものに変更いたしました。裏面も受付場所の地図を入れており、工夫をいたしました。

それから、マイサポギャラリーと申しまして、登録団体のポスター25枚を貼って、各施設で掲示をしています。前年度までは巡回方式で、市内の施設を1週間ずつ巡回させていたのですが、今年度は期間いっぱい、大体6週間ぐらいですが、市内の施設、借り切らして、並行してたくさんの場所で長い間、展示をいたしております。以上、広報活動でございます。

次が、団体登録数の推移についてです。平成23年度は25団体でスタートしまして、平成26年度の30団体をピークに平成27年度は27団体となりまして、今年度は25団体と減少傾向にあります。生駒市総合計画での平成28年度の目標は40団体でございますので、目標には届いておりません。

それから、市民の届出数の推移ですけれども、こちらも平成25年度の8.22%をピークに、去年度が6.2%、現在のところあまり届出数は伸びておりません。生駒市総合計画での目標が10%でしたので、こちらの方も及んでいない状況となります。

事業規模の推移ということですが、顕著な傾向としては特に出ているのですが、小さい団体がやはり割合的には増えていて、大型団体は少しずつ減っているという傾向にあるかと思えます。大体20万円以下の団体がほとんど、半分以上占めているというのが現状です。

平成27年12月に実施、対象団体は183団体に送りました。対象団体としましては、らぽーと登録団体や過去5年のマイサポ団体、市内NPO法人など網羅的に送りました。一言で言うと、アンケートの結果は、提出申請書作成に対する労力等の負担感が多い割には、支援率が2分の1ということで、満足感に欠けるというような団体の意見が多かったと思えます。

今後に向けてということで、昨年の審査会では抜本的な改正の話も出ていたかと思えますが、事務局側からのプランとして、次のようなものを挙げさせていただきます。

1つ目は、マイサポいこま制度のPR強化ということで、多種多様な団体に対して、直接PRを行う。マイサポいこまの制度を知らない、利用しないという団体にもPRを行う。このことにより、公益活動への誘導が図れるというメリットもあり、市民活動の底上げが

期待できるということで、ららポートの管轄以外でも、各課が管理しているボランティアやNPOありますが、その中から自治会や防災会を引いても数百団体ありますので、そちらの方も選別して勧誘・啓発していこうかと、メインは生涯学習関係になるかと思いますが、自分たちの共益という部分で活動している団体にも、公益という観点からの活動を促したいと思っております。

2つ目は、第三者による評価を広く発信するということで、マイサポいこまの事業が地域に生かされていることを周知し、社会貢献活動や公益活動を知らない人、関心のない人にも理解してもらい、興味を持ってもらえるようにするというで、今までは事業のPRはしていましたが、その結果を市民さんに報告する機会が少なく、こちらに力を入れていこうかと思っております。PRの場としては、ららポートでも、公式ツイッターをしていたり、ホームページを持っていたり、そういうところで発信していけたらと思っております。職員は、今まであまり行ってなかったようですが、できる限り事業に足を運びたいと思っております。

3つ目として、届出いただいた方の中から抽選で市内産の商品をプレゼントも考えております。制度のPR効果と届け出率の向上を図るため、プレゼントはマイサポ団体を除く、ららポート登録団体や社会福祉施設などの商品とし、当該商品や団体活動のPRを兼ねるものとするということを考えております。

登録・届出事務等の改善ということでは、届け出に関する利用、利便性の向上としまして、紙にミシン目を入れておき、切り取る手間を省くなど、できるだけ届出される方の心理的な負担を減らしていこうかと思っております。また、届出用紙の様式を改良ということで、マイサポいこま紹介冊子についている届出用紙ですが、現在、1ページに2枚しかついておりませんので、こちらを3枚にして、総ページ数を減らし経費を削減しようと思っております。

団体の登録申請報告手続の簡略化ということで事業計画書と報告書について、申請書の届出を書くときに、やはり言葉遣いが固いと、慣れておられない方は、難しい、面倒につながりますので、平易な言葉で書き直し、できるだけ記入しやすいように、このように書きかえさせていただこうかと思っております。

このほか、ここには書いておりませんが、条例施行規則で計画書や申請書類を上げていますが、決定通知書や確定通知書等々は規則の方に上げていかせていただこうかと思っております。これに関しては、特に条例施行規則を変えるだけですので、団体等にとって何

ら変わるところはございません。以上が事務局からの改正の提案でございます。

【中川会長】 お一人ずつご意見いただきたいと思います。だんだん減ってきている、人気がなくなってきている、それは何故かということと、見直す方策等は事務局が考えられている限りのことはやったださっていると思いますけど、こういうふうにしたらい、ああいうふうにしたらいというご意見があればおききたいと思います。これもやはりいろんなお立場で、北浦委員からまず、1番目、切り口としてお願いします。うちが申請するとするならば。

【北浦委員】 アンケートにもありましたように、手続きというか、書類を書くのが煩雑だということで、2分の1補助であるというのは、やはり負担だろうというのはアンケートからも読み取れたと思っています。ただ、やはり市民の税金をいただいて事業をするので、ある程度はそういう社会的な責任も果たさないと駄目だということも、団体として自覚してほしいという思いもありますので、なかなか難しいなと思って見させてはいただいていました。その中でも、結構小規模なところが増えてきて、本当に数万円いただくために、かなり煩雑な書類作成などは、やはり合わないというのはあり、助成金でも、低い額と高い額と、書類を分けているところが結構あります。本当に数万円程度なら、もう何百何十何円までいかないで3万円以下のような、ざっくりと一式を1つにしてしまって、書類も簡単にすれば、小規模でやりたいと思っている団体からしたら、やりやすいのかなと思いました。

【中川会長】 簡素化のために、金額によってランクを分けて、一定金額以下は書類を簡素化するとか、いろんな義務を軽減するという提案ですね。だから、2分の1補助については、これは規則ですか、条例事項ですか。

【平井委員】 額は条例事項です。ですから、条例改正が必要になってきますので。条例の第8条です。それで、前回、いろいろご意見いただいた中で、補助率を上げてあげたらいいのではないかというものもありましたが、市の大きな方向としては、基本的に補助金というのは2分の1というのがまずあります。この制度だけ3分の2というのも、いかがなものかということもありましたので、もう一度、今やっている制度を見直しするところはして、最大の努力をしてみ、その次のステップで補助率を考えてみようということです。

【宮西委員】 PR強化ということで、利用されてない団体にも積極的にPRを行っていくということですが、やはり団体が増えないと、届出率も増えてこないというのは、そ

ういう感じなのかとは思いますが、でも、難しいですね。先ほどの2分の1補助がネックであったりとか、申請がネックであったりとか、気軽に少しの金額でもいいから、申請してみませんかというようなことであっても、申請書類がネックになってしまうというようなこともあるので、まずは団体が既にされている活動でこれ使えますよ、というPRもできたらいいのかなと思いました。団体がどんな活動をされているか調査していただくようなことが必要になってきてしまうかもしれないですが、新規でやるよりは既にされている活動で支援対象になるような活動を見つけて、お願いといいますか、やってみませんかというようなPRもできたらいいと思います。届出者に何かプレゼントをされるというのは、届出する側からとったら、やってみようかなという気にはなるかなと思います。おもしろいなと思って、見させていただきました。

【谷野委員】 申請の簡素化は必要かと思えますし、先ほど言われた、規模によって分けてもいいのかなと。50万円いただくのに、やはりあまり簡素化というのはいけないのかなと思います。あとPR方法としては、冊子を全戸配布されたり、ユーチューブでプレゼンされたりしていますけども、なかなか見る機会というのが少なくなるのかなと思っています。例えば自治会の総会のときに、今の動画をみんなに見てもらったりして、自治会の中で、うちの自治会にはこういうニーズがあるとみんなで話し合っただけで届出してもらおうとか、見守りの事業をこういう形で始めてみようとか、ボランティア組織作るとか、動きがあるようになると思います。そういう架け橋になるようなPRを1回、チャレンジしてみられてもいいのかなというのと、補助率ですけども、条例では2分の1ですが、例えばキャンペーンみたいなものは無理でしょうか。今年度だけは取りあえず応募してくださいとあって、全額補助するとか、そういうことも可能でしたらやってみたらいいかなと思いました。

やはりPRが一番で、きっと参加していただいた方で簡素化したらまたやりたいという団体が多いのかなとは思っていますし、皆さん、何かやりたいだろうなというのも思いますので、あとはそれを行える環境を作ってあげたらいいのではと思います。

【森委員】 今やれることを考えた場合にですが、簡素化というのは1つの方法として今やり始めてみる、それも1つの流れだと思います。それに関係して、申請時期、その时期的なサイクルというのも大事ですね。もう1つは、新規参入の話ですね。やはり小さな地域の、さきほど申し上げていましたけど、共益のグループに、ちょっと公共的なことをしてみようという誘い、これは大事だと思う。そういうことで、大きく参入する。1つでも

増やしていくのが、今できることかなと思います。

【中川会長】 ありがとうございます。それでは、平井委員、どうぞ。

【平井委員】 私も、過去の推移を見ていたら、どんどん下がっているということ。せっかくのいい制度ですけども、とにかく現状をまず分析して、課題をいろいろ考えていますが、まず、今お話されたことと同じことになりますが、やっぱり市民目線で書式も見ないと、普通の人にはぱっと見て、社会的背景など、社会性・地域性とか言われても、なかなか書き方が分からない。どのようにまとめたらいいか分からないという人もおられるだろうから、簡素化の中でも、ちょっとした言葉遣いを変えてみよう。また、費用対効果を考えて、公益活動ということをつかっていたか分からないと駄目だと思う。今まで、いろんな団体にどのような形で、どんなPRをしていたのかというところで。先ほど、谷野委員がおっしゃっていた自治会とか自主防災会、ほとんど生駒市の場合、自治会イコール自主防災会になっていますが、そこでの活動も対象になる部分というのは、あるのはあります。ただ、自主防災会の活動の関係で少し補助金が出るものもあります。自治会は自治会で、また補助金がありますが、別枠で公益活動されているなら、当然、対象になりますので、その辺をうまく使えば広がっていくだろうと思います。

今までマイサポいこまに申請された団体にだけ、案内を送るのではなく、もう思い切って、いろんな団体、共益活動を主でおこなっているところにも、考え方を改めて。ただ、手続をできるだけ簡素化できないかなというのは、大分悩んだのですが、限界もありますので、もし分からなければ気軽にお越しく下さいという形で、どんどん引っ張っていかうかという話はしていました。ただ、地理的な問題ありまして、少額の補助金をもらえる場合、相談と手続に役員いうか、代表の方、二、三人が来られます。例えば鹿ノ台から来られる場合でしたら、その交通費だけで、補助金を上回ってしまう可能性もあります。そのことを考えれば、少額の公益活動、本当の意味での公益活動でしたら、全額助成いうのもありきだと思っています、それは最後の手段にしておいて、今年度は補助率をそのままにしておこうかなと。

できるだけPR。それとマイサポいこまの冊子も全戸配布させていただいている、ユーチューブも配信しているというものの、実施主体側になると、一生懸命やっているのは分かりますが、市民の目線で見ると、すぐ関係ないと思って、古紙のところへ入れられたら、それで終わってしまいますしね。ユーチューブの配信も、関心ある方、申請されている団体の方は見られるけども、一般の方はなかなか見られていないのが現状です。どうにか見

てもらいたいですが。その見てもらう中で、団体のPRも大事ですけども、第三者評価というのが、やはりボランティアの方のやる気のもとになりますので、今度はその目線を変えて、そちら側からの広報活動に力を入れていこうということ。プレゼントの話もありましたが、商品は地元の特産品というのもいろいろありますが、いろんな作業所等々で作っておられる成果品をPRしていきたいなと思っています。案の中には、マイサポ団体を除くという形で書いていたと思いますが、マイサポ団体を除く、ららポート登録団体や社会福祉施設などの商品ということを書いていますけど、マイサポ団体の中でも、内容によっては、いいところは含めていただきたいと思っています。以上です。

【中川会長】 一通りお聞きしましたが、先ほどのもっと団体を発掘する手法を考えていくというのが1つ、それから金額面で書類の難易度というか、簡易さを分けて。例えば、5万円以下だったら、簡単な書類でいいというようにする方法もあると思います。PR方法をもっと工夫するというのがかなり多いですね。森委員が言っておられた、申請時期が大事というのは、かなり大きいですね。

冬ごろにマイサポのPRを始めて、春に受け付け開始か、あるいは2月、3月に受け付け開始か、そうできないかということですね。

それから、新規参入の方々への誘いとおっしゃりましたが、これ、PRとも関連しますが、現在のマイサポいこまの方々も含めて、市民公益活動とは何かというのをもう一度勉強していくということと、こういうことをやれば、助成金もらえるというヒントを、むしろ市民公益活動団体の人に経験者としてしゃべってもらうとか、そういう学習会みたいなのもっと行えばいいのではないですかね。だから、被登録団体にもっと呼びかけていくという。

【北浦委員】 申請された団体の資質の向上みたいなのもやはり必要だと思っています。今はずっとららポートで1対1の対応をしてくださっていると思いますが、お互いが会うとき、PRする場では会われるかもしれないですけど。それぞれの団体が申請書に書いたような主張をきちんとして、理解してもらえるかというのを団体同士で話ができるような場など、それが本当に相手に伝わっているのかというのを団体同士でワークショップをやるなど、分かりやすいと思います。やはり各団体が、自分たちがもっときちんと市民にPRしないと、理解されないということを自覚しないと書くことが手間だと思えないと思います。職員の方から言われるだけなら、言われるとおり、書かないと仕方ないと思えないですけど、そういう場で、自分自身できちんとPRしないといけないということ

を自分で気づくと、もっと書けるでしょうし、理解を得られるようなPRもできれば良いじゃないかなど。

【中川会長】 今おっしゃったようなことをもっと事業化したらどうですか。例えば、マイサポいこまの補助金をもらって、こんなことができた、やはり厳しい目線にもさらされます、みたいなことを市民が市民に話していくという、そういう学習コースみたいなものがあつた方がいいじゃないですかね。補助金もらった団体が市民に対して、いい意味で説明責任を果たすとともに、一種のスタープレイヤーとしてデビューする場のような、そういう評価をさらに高めていく場を、もっと仕掛けていったらいいでしょう。マイサポいこまから登場したいいわゆるスター団体みたいな、生駒市民の誇りとする。団体ベストテンとかが出てくるとか、そういう風にしても、もっとみんなで持ち上げる、褒め称える、大拍手喝采を浴びるといような場面をもっと作ってあげた方がいいと思います。そういう派手さみたいなのがもっとあつていいと思います。

それから、書面を市民目線で書くということですが、私だったら、こう書くという見本を出したらいいと思います。こう書けばいいという、お手本集を作ってあげた方がいいです。分野ごとに。そのお手本集を通じて、これが公共性だと、見れば分かるように。

結局、公共性といったら、開放されていること、誰でも参加できる対象となっていますよ、受益できますよと、特定のグループだけが得するようなものじゃないですよということですね。これが保健・医療・福祉編、それからまちづくり編、文化・芸術・スポーツ編、環境編、国際教育編、子ども健全育成編とか、そういうのを作ってあげて、あなたの団体は、どれですかと聞いたら、文化・芸術・スポーツ編、こういう案がありますから、一度見て、これを参考にして書かれたら、すごく楽になります。ある意味、市民を助けてあげるといことですのでし、いい意味で誘導することです。さあ、書いてくださいと言われてたら、すごく苦勞します。そのつらさを軽くしてあげるためにも、手引きを作ってください。見本を作ってあげるのが、一番です。その中で、例えばアルバイト経費とかは認められるけども、構成員の日当は入りませんといったことは、例に分かるようにしておいてください。それが1つの僕の提案です。

ほかに、補足のご意見とか、追加のご意見ございましたら。PRについては、自治会、町内会とか、地域のコミュニティ団体にもPRされたら、効果は出ると思います。それと、未登録団体も含めて、何とかアクセスして、集まってもらって、学習会みたいなものやってもいいと思います。

【平井委員】 勘違いされている方もおられるのではないかというのは、勘違いというのは、いわゆる新規の交付を受けようとする年度に、本市から新対象事業に係る別の補助金等の交付を受けていることという条件は二重補助にならないようにということにしてありますよね。それを別の補助金を少しでももらっていたら、全部アウトという捉え方をされているところもあると思います。だから、もともともらっている事業と別の事業で公益事業をされたら、助成対象というか、支援金の対象になりますので、そういうことも分かっておられてないと思います。

それと、本当に事務局は、イベントに出向いてということで、PRと出前受付というか、届出受付というか、本当にかわいそうなほど行ってくれています。例えば、たけまるホールで何か催し物があって、来られる方といったら、やはりそちらの受付へ行かれて、中へすっと入っていかれます。マイサポいこまという言葉自体も、まだまだ十分浸透してない部分もありますので。

【中川会長】 クレジットの話、前も出ていたと思いますけども、例えば、私たちの行っているものはマイサポ認定活動ですとか、何かマーキングしようと言っていましたけれども。

【事務局】 実は、のぼりなどを配布したいと思っていまして、事業のときには必ず出させていただくとか、マイサポ事業としてやっているということを市民の皆さまにも、見ていただきたいなというふうに思っています。

【中川会長】 のぼりも効果はあると思いますが、認定された後は、これから発行するチラシに何かマークをしてくださいとしていたと。

【事務局】 一応、その制度はあります。申請していただいたら、マイサポいこまのマークをつけていただいています。

【中川会長】 この市及び市民から公的に支持を受けている団体ですということで、案外誇りになるでしょ。それと社会的信用が高まるという、それをアピールしていったらどうですかね。

【北浦委員】 簡単に選びやすいような方法というのはとれないでしょうか。一応出前で受付されるものは、封筒に入れて、職員に渡すとかはできないですよ。

【事務局】 いえ、もうその場で書いていただいて、その場で受けるというような形で、封筒に入れても全然構わないですけども。

【北浦委員】 コンサートならパンフレットの中にこれを挟み込んでおいてもらって、

だ一つと団体が並んでいて、そのポスト入れるみたいな、帰りにポストに入れて帰れるみたいになったら、もうちょっと見やすいのかなと思ったりしたのですけども。

【中川会長】 今、平井委員がおっしゃっていたような、いろんな知識、ノウハウみたいなものが、以前冊子になっていたような気がします。

【事務局】 募集要項ですね。

【中川会長】 それを研修会や説明会のときに配っていましたよね。

【平井委員】 紹介冊子も、今度からかなり変えて、イラストも入れて準備しています。やはり細かいなとなったら、団体の方も途中でやはりしんどくなります。

よほど時間があるときで、例えば診療所で待っているような長い時間を潰さない。そのような時だったら、全部読めるけども、普段はちょっと、これを全部読むといたら、しんどいと思います。文字も小さいですよ。

【谷野委員】 団体紹介の大きさも、ページの半分ぐらいだったら、団体もアピールしやすいかと、またマイサポ事業一覧表の支援金額希望額のところで、もし、昨年、実績のある団体がいたら、実績額のところに、ありがとうございますなどコメントみたいな感じで書いていると、こんなに支援されている団体だというのが分かれて、やろうかなとか思う感じがしました。

【北浦委員】 伝えたい趣旨は100字以内で、何ポイントで書きなさいみたいなところがちょっとあってもいいかなと、タイトルはこの大きさを書きなさいとか、半分はそういう制限があって、ぱっと一目見ただけでも、何をしている、どんな団体なのかというのが見られたら、これだけ全部の団体も見られるかなと思ったりもします。

【中川会長】 大体、大きな方向性は整理しときましましょうか。1つは、登録団体対象の話と、登録団体以外のニューカマーというのかな、ニューエントリーの本当にグループへの発掘の仕方を考え直そうと。そのためにやはり公開説明会的なイベントに、マイサポいこまを使って、私たちはこんなにおもしろいことを行ったなど。ショーみたいなものを、考えられないということですね。

それから、金額で書類の簡易度を分けるという案と、申請時期を思い切って前倒しして、あるいは翌年向けの後倒しにすることができないか。後倒しにする方が予算編成とも絡むので、難しいと思いますが。

4月1日からスタートするとしたら、絶対誰にも文句は言われませんよね。

【事務局】 今でも申請は、4月から始めて、3月に説明会させていただいています。

【中川会長】 書式、計画書とか報告書等の申請書の類いは、見本を作っておくというか、本当に自分が申請者になったつもりで見本を書いてあげたらいいと思います。結構、皆さん、そのとおりにされると思います。

それと、ニューエントリーの対象としては、自治会、町内会にもっと啓発しましょう。自治会、町内会が行う公益事業みたいなのはたくさんあるわけで、ただし、従来からやっている自治会、町内会事業ではなくて、例えば新しく防災の学習会をしたいとか、地域に広げてみたいとか。

【平井委員】 少し思ったのですが、例えば、ある自治会が防犯の関係をする組織を作られた場合、そしたら自治会に市から補助金が出ているじゃないですか。その部分がその防犯の方にも、自治会の費用から活動費が補填されるとしたら、もう補助対象じゃないという解釈ですね。

【事務局】 そうなりますね。

【平井委員】 ただ、自治会の活動というのは広いですから。ただ、そこが独立した団体だったら、出るわけですね。

【事務局】 自治会に関係ないということ。そうですね。

【中川会長】 それと、たとえ主催が自治会であろうが、自治会の部門の組織であろうがかまわないですけど、公益性ということからしたら、会員のみ限定しますというのは、絶対駄目です。自治会に入っていない人も対象になるということですね。

【平井委員】 ありがとうございます。

【中川会長】 では、今回はこれで終わります。

—— 了 ——